

ゆい ちゅうぶ

7

2023
vol.85

沖縄県立中部病院 広報誌
Okinawa Chubu Hospital

第27回

A day in the life of ○○○

～病院で活躍する職員の日～

麻酔科 の一日

麻酔科では、当院の特徴的な症例（救命救急センター、周産期医療）に対応すべく365日24時間、安全な手術麻酔管理を提供することに努めています。現在、麻酔科医7名にて年間約3,600件の麻酔管理症例を行なっています。（コロナ禍では約3,000件）
また将来の人材育成ため、琉球大学麻酔科とも連携しながら、研修医・他職種への教育にも力を入れています。
よく麻酔科医は、飛行機のパイロットに例えられますが、患者さんが安全かつ快適に医療が受けられるよう多職種と連携しながら業務を遂行しています。



麻酔科医師
西 啓亨

7:30～ 麻酔準備

麻酔器材の点検・薬剤の準備など、患者様の入室前に安全な環境を整えます。（フライト前の準備）

8:00～ 術前カンファレンス



朝のカンファレンス

その日の手術症例における麻酔管理上の問題点・麻酔計画を話し合います。情報を共有することで問題が起こった場合も迅速に対応できます。（フライトプランの決定）
随時、教育カンファレンスも行い、医療の質の向上に努めています。

8:30～ 患者入室：麻酔導入・手術開始



術中の麻酔管理（患者の顔側で、常に全身状態の管理を行っています）
中心静脈カテーテル挿入（研修医）

手術前に麻酔を導入します。緊張の一瞬です。全身麻酔の場合は、意識をなくし、自発呼吸も止めます。状態が安定したら、手術開始となります。術中の出血など様々なイベントに対応しながら、手術麻酔を管理していきます。（離陸～フライト）
手術が終了すると覚醒させます。全身・痛みの評価などを行い、安全に帰室させます。（着陸）
手術麻酔だけではなく、院内での気道確保、無痛分娩にも対応します。

17:00～ 日勤帯終了 当直業務開始

夜間・休日は、麻酔科スタッフ1名、研修医1名で緊急手術の麻酔などに対応しています。複数の手術を同時に行わないといけない状況では、他科の協力の元、緊急対応を行なっています。

麻酔は、手術中、眠らせて痛みをとるというイメージかもしれませんが、その陰では呼吸・循環など命に関わる要素をコントロールしています。今後も病院内のパイロットとして、安全な医療が提供できるようチーム医療を提供していきたいと思ひます。

シリーズ 第30回

コメディカルワンポイントアドバイス ～栄養管理室～

夏バテに気をつけましょう！

だんだんと日差しの強い季節に変わってきましたが、そんな夏に注意したいのが、夏バテです！体がだるかったり食欲がなかったりと症状は人それぞれですが、今が旬の夏野菜を食べて、体調を整えましょう！
夏野菜には、紫外線から身を守るために抗酸化作用のあるβ-カロテン、ポリフェノール類、ビタミンCやビタミンEなどが豊富に含まれています。また、水分やカリウムも多く含んでおり、水分を補いつつ、カリウムの利尿作用により、熱をもった体を冷やしてくれる働きもあります。

今回の焼き浸しには夏が旬のピーマンを用いて、ピーマンの種やへたも使われています。ピーマンの実にはβ-カロテンやビタミンCが、種にはカリウムが含まれています。



栄養管理室 島袋

*参照：農林水産省
https://www.maff.go.jp/j/youan/syoku_zenzen/manabu/r0307/natubate.html

★ おすすめメニュー ★

「にんにく醤油の丸ごとピーマン焼き浸し」



<材料(2人分)>
ピーマン：6個
ごま油：大さじ1杯(14g)
おろしにんにく：小さじ2杯(10g)
酒：大さじ1杯(15g)
みりん：大さじ1杯(18g)
醤油：大さじ1杯(18g)
鶏ガラだし汁：100cc
(鶏ガラだしの素：1g、水：100cc)
かつおぶし：適量

<作り方>

- ①ピーマンに切れ目を入れます。(破裂防止のため)
- ②フライパンにごま油を入れて中火で熱し、ピーマンを並べ入れて焼き色が付くまで焼きます。
- ③ヘラで潰すように抑えて、全体に焼き色が付いたら調味料を加えてひと煮立ちさせてフタをします。
- ④5分弱火で煮込み、粗熱を取ったら完成です。器に盛ってかつおぶしをかけてお召し上がりください。

【栄養価(1人あたり)】 *参考：八訂 食品成分表2021
エネルギー：126kcal たんぱく質：3g 塩分：1.8g
カリウム：304mg β-カロテン：379μg ビタミンC：71mg



pick up! ご存知ですか？医師臨床研修制度

A day in the life of... ～麻酔科の一日～

コメディカルワンポイントアドバイス ～夏バテに気をつけましょう！～

表紙 戦後の医師不足を解消するために始まった中部病院の臨床研修制度は、1200名以上の医師を育成してきました



pick up!

ご存知ですか？ 医師臨床研修制度

医師臨床研修制度とは、医学部を卒業したばかりの若手医師が幅広い診療能力を身に付けるために、2年以上の臨床研修を受ける制度です。

この制度が義務化される以前は若手医師の研修教育に共通した指導体制がなかったため、研修施設によって格差が大きく、専門の診療科に偏った教育のせいで専門

外の病気を診られない、医療事故が起こりやすいなど、様々な問題がありました。こうした問題を解消するため、2004年に新医師臨床研修制度がスタートします。実は、この制度のモデルとなったのが中部病院の臨床研修制度でした。

中部病院の臨床研修の特徴

○スーパーローテート方式

専門科にかかわらず、内科、外科、小児科、産婦人科など全ての診療科で基本的な知識と技能を身につける方式

○ER型救急

24時間365日、軽症から重症まで全ての患者さんを診る救急医療（※日本の救急センターの多くは重症度によって受診できる患者が決まっており、「たらい回し」の原因の一つになっていた）

○屋根瓦方式

初期研修医を上級研修医が、上級研修医を指導医が教育するという教育方式

現在日本全国の病院で取り入れられているこれらのシステムは、沖縄がアメリカの占領下にあった時代から、中部病院で脈々と受け継がれていたものでした。

戦争で多くを失った沖縄県は、1967年、極度の医師不足を解消するために中部病院での医師臨床研修を開始します。アメリカ政権下、研修事業は米国のハワイ大学医学部に委託され、日本本土とは違ったアメリカ式の医療・研修制度が根付くことになりました。

沖縄県は離島が多く、島に赴任した医師が一人で全ての病気を診ることが求められます。そこで総合診療医の養成に重点を置いたスーパーローテート方式が生まれました。

また、24時間365日体制で全ての救急患者を受入れるには、若い研修医達の力が不可欠でした。先輩医師、



ベテラン医師との緊密な連携とバックアップのもとで屋根瓦式の教育が生まれ、初療から専門科での治療までをスムーズにつなげることができるようになりました。

このような経緯から、「教えることは学ぶこと」という文化が根付き、医師だけでなく看護師、検査技師など全ての職種が積極的に研修医の教育を担っています。

ベテラン医師の厳重な指導のもととはいえ、研修医が診療にあたるには、患者さんのご理解とご協力が欠かせません。

中部病院の臨床研修は、医師の育成を通して地域医療を守るため、地域の皆様の温かい姿勢に支えられて生まれ育った研修制度なのです。

ハワイ大学と中部病院臨床研修制度

ハワイ大学医学部外科、国際医療医学オフィス
ハワイ大学卒業研修プログラム ハワイ大学側責任者

町 淳二

「急病になるなら東京のご真ん中であるより沖縄の田舎である方が安心だ」沖縄県立中部病院で研修を受け東京で長年働き現在沖縄に住んでいるある医師のことばです。これはちょっと極端な一例ですが、中部病院で何十年も行われてきた24時間体制の救急室がいかに沖縄住人にとって頼れるところであることを示しています。

アメリカの救急室も含めた各科の診療と研修の優れた制度を中部病院がハワイ大学と提携して日本に導入して60年ほど経ちます。それが中部病院のハワイ大学卒業研修プログラムで、私はその研修制度の11期生でした（今から45年も前のことです）。当時から非常に忙しい病院で厳しい研修でしたが、有能な情熱のある指導医のもと大変有意義な教育を受けられました。何より患者さんの皆さんが研修にとっても協力的で、温かく研修医にも接して

くださいました。

医学そして医療・診療の進歩は日進月歩で、研修医も指導医も常に学習する必要があります。そのためにもハワイ大学は沖縄県と提携し、ハワイも含め海外の指導医を毎年10人ほど中部病院にコンサルタントとして派遣して、沖縄の皆さんが最新の医療を受けられるようベストを尽くしてまいります。一方、良い医師の育成は診療の現場での研修を通して達成できることで、皆さんが患者さんになった時には、研修へのご理解とご支援をお願いいたします。



研修医からのメッセージ

沖縄県立中部病院 チーフレジデント

鶴海 裕之

初めまして。沖縄県立中部病院で内科研修医をしております、鶴海裕之と申します。

出身は京都、中学高校は兵庫県、大学は福岡県で医学を学びました。進学するたびに新しい環境に触れ、たくさんの方々にお世話になって今の私があります。福岡県の大学病院で実習をしていたときに沖縄出身の先生から「沖縄県立中部病院は厳しい研修で有名である、やる気があるなら見学に行ってみるといい」とアドバイスされました。大学時代にラグビーをやっていた自分は、やる気と体力には自信がありました。雨の日も風の日もグラウンドに出て、歩けなくなるまでぶつかり続けるラグビー部の部活よりも厳しい研修など存在しないだろう、と高を括り沖縄へ飛びました。

そこで見た研修医たちの姿は今でも鮮明に覚えております。7月の沖縄、熱気に包まれた救急室で1年目の研修医が患者さんと真剣に話し合っています。高熱の乳児を抱えて不安そうな母親に、優しい声で病歴を聴取していました。突然緊急コールが鳴り響くと、診察室から脱兎のごとく駆け出し電話を受け、救急隊と連携し受け入れ態勢を整えます。救急車で運ばれてきた患者さんに迅速に対応し、心電図やレントゲンなどの検査を指

示して、体中を汗で濡らしながら細い血管を刺し採血をしています。上級医を呼んで病歴や検査結果を確認し、追加の検査や治療についてアドバイスを受け、小さなメモ帳に走り書きして患者さんの元へ戻って行きました。医学生であった私はその研修医の後を走ってついていだけあり会話の内容はほぼ理解できていませんでしたが、この病院で研修しようとその日に決めました。

翌年私は無事に沖縄県立中部病院に採用され、今年度よりチーフレジデントとして研修医をまとめる役目を拝命しました。「1日でも早く成長し、患者さんの役に立てる医師になりたい」という強い気持ちを後代に繋ぎ、最善の診療を提供するため一丸となって尽力を続けて行きます。救急室で汗を垂らしながら診療した日のことを忘れずに。



中部病院の研修医に密着取材したドキュメンタリーが NHK で放送されました！

2012年 NHKBS1「こうして僕らは医師になる～沖縄県立中部病院 研修日記」

2022年 NHKBS1「こうして僕らは医師になる～沖縄県立中部病院 研修医たちの10年～」